【機密性１】
令和 8 年 10 月 30 日（金）
総務企画部
オープンシティ・プロモーション室

定例記者会見　市長コメント（概要）

①釜石市と東京藝術大学との連携について（オープンシティ・プロモーション室）資料１

このたび、釜石市と東京藝術大学では、釜石の地域資源を活用した地域課題の解決や地域活性化に向け、アーティストの派遣・受入れなどを通じた連携を進めることとなった。

今回の連携に至った背景には、東京藝術大学の日比野克彦学長と当市とのこれまでの交流・つながりがある。

日比野学長には、東日本大震災直後から、仮設住宅での活動や「とうほくのこよみのよぶね」など、アートを通じて長年にわたり釜石と交流いただいている。

こうしたつながりを背景に、今年 3 月から連携内容などについて協議を進め、具体的な取組として、東京藝術大学からの推薦でアーティストの五十嵐靖晃（やすあき）さんを迎え、株式会社かまいし DMC と連携しながら、当市で創作活動を行う「釜石版アーティスト・イン・レジデンス」を実施するもの。

五十嵐靖晃さんは、地域の人々との協働を通じ、その土地の暮らしと自然を結ぶ表現活動を各地で展開しているアーティストであり、2011 年から 2012 年にかけて釜石で滞在制作を行うなど、釜石とのつながりもある。

活動期間は 10 月 7 日から来年 2 月 7 日までを予定しており、当市の自然や地域の人々との関わりを重ねながら、作品の制作につなげていただくこととしている。

11 月 7 日、8 日に開催する「海と希望の学園祭 in Kamaishi」では、日比野学長にトークイベントへご参加いただくほか、五十嵐さんが 2012 年の釜石滞在で制作した作品等、これまでの活動紹介や現在行っている制作活動の途中経過、構想などを発表していただく予定としている。

今回の取組は、単に作品を制作するだけではなく、アーティストが地域に滞在し、市民との交流の中で得た気づきや新たな視点を作品につなげるとともに、市民にも地域の魅力や価値を改めて見つめていただく機会になるものと考えている。

市としても、今回の取組を契機として、東京藝術大学との連携を深め、アートや文化の力

を生かした地域活性化や新たな交流の創出につなげていきたい。

②第 37 回日本ウミガメ会議三陸大会の開催について(オープンシティ・プロモーション室)

資料 2

11 月 13 日から 15 日までの 3 日間、釜石市民ホール TETTO などを会場に、「第 37 回日本ウミガメ会議 三陸大会」が開催される。

日本ウミガメ会議は、全国の研究者や学生、ウミガメの保全活動に取り組む団体などが集まり、調査・研究成果や各地域の取組について情報交換を行う全国会議である。1990 年の第 1 回大会以来、ウミガメの産卵地を中心に開催されており、今回は東北地方で初めて、また、これまでの開催地で最北となる釜石市での開催として、全国からおよそ 200 名から 250 名ほどの参加を予定していると伺っている。

今回の開催は、市内のあらゆる場所が学びのフィールドとなる「釜石オープン・フィールド・カレッジ構想」の推進に向けた取組の一環として、東京大学大気海洋研究所との連携を進めている中で、ウミガメのバイオロギング研究の第一人者である同研究所の佐藤克文(かつふみ)教授から紹介をいただいたことをきっかけに、釜石での開催に至ったものである。

大会では、「東北とウミガメ」や東京大学大気海洋研究所の三陸地域におけるウミガメ研究に関する特別セッションのほか、全国の研究者や学生等による口頭発表、ポスター発表などが予定されていると伺っている。

三陸の海は、私たちの暮らしや産業を支える大切な地域資源であると同時に、国内外の研究者にとって重要な研究フィールドでもある。今回、全国から研究者や学生、海の環境保全に携わる方々が釜石に集い、交流していただくことは、市民、とりわけ次代を担う子どもや若者が、海や生き物、研究の世界に関心を持つ機会になるとともに、全国の人に釜石・三陸の魅力を知っていただく貴重な機会になるものと捉えている。

市としては、この機会に、多くの人に当市に足を運んでいただき、ウミガメや三陸の海への理解を深めるとともに、全国から集まる研究者や学生などとの交流を通じて、新たなつながりや気づきを得ていただきたいと考えている。

また、今回の会議を契機として、大学・研究機関との連携をさらに深めるとともに、当市をフィールドとした学術会議や全国規模の会議、イベントなどである MICE（マイス）の開催・誘致にもつなげていきたい。